

事務事業名 ちくしの子ども劇場補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：608

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-09-00
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)			2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)							
ちくしの子ども劇場			<p><概要> ちくしの子ども劇場は、昭和55年に福岡子ども劇場から独立、平成13年にNPO 法人となった。文化芸術活動、自然体験、異年齢集団遊びなどを通して、地域の中で子どもたちがいきいきとした子ども時代を過ごせる環境づくりを目指して活動する団体。</p> <p><主な事業> 子ども市、子どもキャンプ、地域活動、子どものための優れた舞台芸術に関する事業、表現活動に関する事業、子どもの権利条約普及啓発事業、子育て支援</p> <p><補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、子どものための優れた舞台芸術に関する事業に対し交付している。</p>							
3. 意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)			<p>子ども市、子どもキャンプ、地域活動、子どものための優れた舞台芸術に関する事業、表現活動に関する事業、子どもの権利条約普及啓発事業、子育て支援</p> <p><補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、子どものための優れた舞台芸術に関する事業に対し交付している。</p>							
対象の事業を推進し、子どもたちの文化芸術への関心を高め、文化芸術活動への参加意欲を喚起する。さらには、子どもたちが、文化芸術に触れることで、豊かな感受性を育まれることを目指す。										
4. 成果 (簡易評価は未記入)										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
補助対象事業への参加人数		人	1,150	1,298	1,875				2,200	
5. コスト										
事業費		計	千円	100	100	100	100			
		国	千円	0		0	0			
		県	千円	0		0	0			
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	0		0	0			
一般	千円	100	100	100	100					
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	803	792	773					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	903	892	873	100				
6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)										
あがっている	<p><状況>傾向としては、補助対象事業全12公演の参加人数は減少している。 <原因>母親の就労や住民異動によって会員数が減少している。 <成果指標>令和4年度は、平成30年度から令和元年度の平均に10%を加えた目標とした。</p>									
どちらかといえばあがっている										
あがっていない (停滞・低下)	<p>コロナ禍にありながらも、年間12公演が実施できたことは評価できる。各イベントが開催中止になる中、子ども達に文化芸術を体験させる活動の最後の砦ともいえる。</p>									
7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)										
対象動向	維持	類似事業	なし	子どもたちの発達に沿った生の舞台公演をはじめ、地域活動を実施。子どもたちの芸術に親しむ機会を提供し、親子で芸術文化活動への参加意欲を高めた。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用 (維持/事業終了の場合は記入する必要なし)										
<改革案> 29年度から補助対象事業を舞台芸術鑑賞に関する事業とし、その参加状況を成果指標とした。団体予算に対する補助事業の割合は約43%を占めるため、今後も参加者の減少が進めば補助対象事業の縮小が懸念される。開催頻度や舞台の質を維持するために、補助金を有効活用したい。					<必要性> 優れた芸術家を安価で招くなど、プロデュースは県下の子ども劇場随一と言われており、文化施設からも高い評価を得ている。チャリティーコンサートでは、文化会館を満席にした実績がある。本市の文化芸術振興には欠かせない団体である。					
事業開始背景及び現在の環境変化 (市民・議会等の要望)					備考・特記事項 or 進行管理欄					
2001年「子どもたちが地域の中で、豊かに生き生きとした子ども時代を過ごすための環境づくり」を目指し法人として設立された。					小学校への芸術家派遣事業 (アウトリーチ) を検討する中で、芸術家と学校との調整を行うコーディネーターの役割を担ってもらいたいと考えている。					